

第1回商業観光業部会 議事録

開催日時：2023年1月19日（木）15：00～16：30（常滑商工会議所）

参加者：＜役員＞村田、岡田、相川、稲葉、澤田、中橋、伊奈

＜役員外＞渡辺（愛和物産）、常（CCN）、田村（観光協会）

＜事務局＞榊原専務、坂本、蛭川

○導入あいさつ（村田部会長）

この部会の目的主旨については、常滑を盛上げるためには事業所や関係機関が一つになって取り組む必要がある。協力をお願いする。

○役員役割分担について（村田部会長、岡田副部会長）

別紙、各メンバーの役割と chitaCAT P/T やその他との連携先について。

部会の定例会は毎月、概ね第3木曜15時～としたい。

○次年度の活動（イベント）提案

＜イベント企画＞

・「クラフト&ファーマーズマーケット」：5/20, 5/21（決定）イオン全館利用

→以前は器と食をからめて販売して盛り上がった。出展者は一覧表があるので参考とする。市外・他産地も呼び込みたい。

具体的には、分科会にて内容をまとめ、関係各所と連携しながら具体化したい。

・その他イベントは季節ごとに計画したい。例えば以下のようなもの

夏の花火大会と常夏フェスタ（夏祭り）、セントレア展望デッキでの盆踊り、招き猫まつり、冬イルミネーション

→初年度であり、できるものから実行できたらよい。

○意見交換

・2026年アジア大会（名古屋・愛知開催）成功にむけてセントレアがキーになる。

インバウンドも含めた受入れ体制（おもてなし体制）の充実が急務となる。

・インバウンドは徐々に回復（ベトナムや台湾は回復ほぼ回復しているが中国は0.8%）。

愛知は東京、大阪、博多に比べるとインバウンド回復が遅れている。

中国客は全体的にはしばらく不透明であるが、富裕層はターゲットとして有効。ビザ制約等も関係ない。円安でもあり、そういった層に手を打ちたい。

・本部会の具体的なテーマや目的をはっきりすべき。イベント開催は一過性であり、観光振興とは分けて考えたい。常滑は人を呼ぶツール（資源）はある。インバウンドを目的

としたらロングステイしやすい環境を整える。住んでみてこそ総合的な良さがわかる。

・イベントでインバウンドを呼び込むことは難しい。インバウンドを対象とするならば、SNS（インスタ）映えが大事。いつ行っても（定常的に）存在するものが必要。

・イベント+観光振興を両輪で。

イベントは地域の方が楽しい。すぐやれること。部会でも積極的にやる。

観光振興は時間をかけてゆっくりと魅力発信。行きたくなる、住んでみたくなる。

- ・部会の役割は意見集約して提案すること。個々の事業者の意見と動きをまとめる。
- ・目的を設定し会員共有する必要がある。目的の中に数値目標を盛り込むか。定性的では可能だが、定量的にも盛り込むか、、要検討。
- ・本地域は情報発信が遅れている。もしくは、やっているが情報共有や活用がうまくいっておらずもったいない。本部会を情報共有の場に活用。
 - インバウンド用パンフレットとしてじゃらん英語版を今年度作成予定（観光協会）
 - お客様が欲しがっているものをプロ目線でPRするツール（今ある資源の見せ方）
- ・空港や展示場など勝手に人が集まる場所をうまく活用したい。
- ・旧市街地に人をどう流すか、焼物を中心とした国際やきもの都市となればいい。コンテンツを集約してキーマンを部会のなかで作っていききたい。半田CCIが良例。
- ・事業者がやることを市や観光協会がバックアップする方が面白いことができる。行政主導だと規制がある。民間の力をいかして活動していく。ただし行政と民間の方向性の一致、連携は非常に大事で結果にもつながりやすい。補助金の活用なども視野に置いて。
- ・市の「まちひと総合戦略」は地域の魅力のみがいて観光客を呼び込み定住者を増やすという循環型のプロジェクト。部会の意見を集約して提案していく場にしたい。
- ・観光振興によって、結果的には個々の事業のもうけを生み出すしくみや話題づくりも必要。ビジネスにどうつなげていくか、を考えておく。
- ・会員に対してフォローバックを充実させる必要がある。部会としての価値を会員に感じてもらえるように。リストを作成する。

○次回部会：令和5年2月16日 15：00 常滑商工会議所

次回のテーマは「地域イベント」、「観光振興」として幅広い意見交換したい。

各メンバーからの提案やご意見等あれば、事務局蜷川まで。